

问22 请问有关您现在的工作内容。

(1) 您现在做的工作都有什么内容？在以下选项中选出全部相应的项画○。

1. 统盘计划管理业务
2. 软件产品的企划
3. 项目团队管理(团队是指为开发软件组成的最小的组织单位)
4. 软件概要设计
5. 软件详细设计
6. 编程及单元测试
7. 综合测试及系统测试
8. 软件的维护
9. 其它工作(具体是:)

(2) 在其中选一项最主要的(投入时间最多的)工作, 把其号码填在下面的空格里。

主要的工作是

问 23 请问关于您所在的软件开发团队的一些问题。

(1) 您直接所属的开发团队有多少人?(包括您在内)

总计 人

→其中、与您相同国籍的 人

日本国籍的 人

其他国籍的 人

(2) 请问您所在团队的领导的国籍。在以下选项中选相应的一项画○。

1. 与您相同国籍
2. 日本国籍
3. 其它国的国籍(具体是:)

以下是有关您对工作的想法的一些问题。

问 24 您本人是否认为如果没有其它个人理由, 不管到多大年龄都可以做软件开发工作? 在以下选项中选一项画○。

1. 不管多大年龄都可以做 → (问 25)
2. 到一定年龄就做不了 → 您认为可以做到 岁 → (付问 24-1)
3. 不知道 → (问 25)

【付问 24-1】您认为是什么原因导致软件开发工作只能做到那个年龄? 在以下选项中选出您认为的所有理由画○。

1. 体力问题
2. 集中力等精力问题
3. 创造力等想象力问题
4. 对新课题·开发项目缺乏挑战精神等方面的问题
5. 跟不上技术变化的速度
6. 因项目管理业务的繁忙
7. 因开发软件以外的事情繁多(会议, 与其他部门的协调、接待客户、做预算等)
8. 其它(具体是:)

問 25 在以下选项中您感觉最有归属感的是哪一项？请选一项画○。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. 公司 | 2. 所属部门 |
| 3. 直接上司 | 4. 工作中的同事 |
| 5. 您（平时工作时）所属的团队 | 6. 软件开发技术员的职业 |

关于对现在的工作及生活的满意度的一些问题

問 26 您对现在工作中的以下几个方面是否感觉满意？请您在以下对各项的1~5段评价中选一个数字画○。

	非常不满 ←—— 说不清是哪一种 ——→ 非常满足
① 工作内容	1..... 2..... 3..... 4.....5
② 人事评价（或制度）的公平性	1..... 2..... 3..... 4.....5
③ 晋级・晋升の机会	1..... 2..... 3..... 4.....5
④ 与上司或同事的交流	1..... 2..... 3..... 4.....5
⑤ 与日本人和来自不同国家的人的交流	1..... 2..... 3..... 4.....5
⑥ 与用户、客户的交流	1..... 2..... 3..... 4.....5
⑦ 提高能力的机会	1..... 2..... 3..... 4.....5
⑧ 工作上的权限	1..... 2..... 3..... 4.....5
⑨ 工作时间的可调解度	1..... 2..... 3..... 4.....5
⑩ 劳动时间的长度	1..... 2..... 3..... 4.....5
⑪ 工资・奖金	1..... 2..... 3..... 4.....5
⑫ 福利	1..... 2..... 3..... 4.....5
⑬ 公司为员工设计的职业生涯	1..... 2..... 3..... 4.....5
⑭ 工作的综合满意度	1..... 2..... 3..... 4.....5

問 27 请问您对在日本的生活的满意程度。请您在对各项的1~5段评价中选一个数字画○。

	非常不满 ←—— 说不清是哪一种 ——→ 非常满足
① 住宅	1..... 2..... 3..... 4.....5
② 饮食	1..... 2..... 3..... 4.....5
③ 通勤状况	1..... 2..... 3..... 4.....5
④ 医疗环境	1..... 2..... 3..... 4.....5
⑤ 与小区居民的关系	1..... 2..... 3..... 4.....5
⑥ 子女的教育	1..... 2..... 3..... 4.....5
⑦ 治安	1..... 2..... 3..... 4.....5
⑧ 生活的方便程度	1..... 2..... 3..... 4.....5
⑨ 在日本生活的各个方面	1..... 2..... 3..... 4.....5

问 28 请问您对在日本生活的习惯程度。请您在以下对各项的1~5段评价中选一个数字画○。

	一点都不习惯 ←—— 说不清是哪一种 ——→ 非常习惯
① 日本社会的习惯	1····· 2····· 3····· 4····· 5
② 与小区居民的交往	1····· 2····· 3····· 4····· 5
③ 与日本人同事在工作以外的交往	1····· 2····· 3····· 4····· 5
④ 与日本人的日常交谈	1····· 2····· 3····· 4····· 5
⑤ 住宅状况	1····· 2····· 3····· 4····· 5
⑥ 饮食	1····· 2····· 3····· 4····· 5
⑦ 购物的方法	1····· 2····· 3····· 4····· 5
⑧ 利用娱乐·休闲设施	1····· 2····· 3····· 4····· 5
⑨ 利用医疗机构	1····· 2····· 3····· 4····· 5
⑩ 通勤	1····· 2····· 3····· 4····· 5
⑪ 在日本生活的各方面	1····· 2····· 3····· 4····· 5

关于您今后职业与生活的一些问题。

问 29 请问您对现在公司的工作,今后有什么打算?在1~5段中选一个数字画○。

想马上换公司 ←—— 说不清 ——→ 想长期在这里工作
1····· 2····· 3····· 4····· 5

问 30 请问您如何考虑您今后在日本的滞留问题?请在相应的一项上画○。

1. 打算在日本永住
2. 打算若干年后回国居住
3. 打算若干年后去日本·出身国(祖国)以外的第三国居住
→ 国名(具体是:)
4. 不知道

自由书写栏

请您在下栏中自由书写关于您在日本的工作和生活经历、意见等。
(不用日语写也可以，望您务必填写。)

如果您想知道调查结果的概要，请在下面留您的电子邮件信箱地址。我们会在 2005 年 4 月末时发送给您。

电子邮件信箱地址：_____

非常感谢您的支持！

7. 資料

人口減少に対応した国際人口移動政策と移民保障政策の連携に関する国際比較研究
平成16年度(2004年度)研究会一覧

月日	曜日	時間	講演者	所属	肩書き	テーマ
1 2004.5.13	木	10:00-12:30	竹之下弘久	慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所	研究員	移民・外国人を対象とする調査設計の留意点 在日外国人に関する量的調査—方法論的問題 について
2 2004.5.17	月	14:00-17:00	樋口直人	徳島大学総合科学部	講師	広島市外国人市民生活・意識実態調査について
3 2004.5.25	火	14:00-16:00	伊藤泰郎	広島国際学院大学現代社会学部	講師	
4 2004.5.31	月	14:00-16:00	佐野 哲	法政大学経営学部	教授	外国人を対象とする調査について
5 2004.6.4	金	13:30-15:30	岡 伸一	明治学院大学社会学部	教授	EUIにおける外国人の社会保障政策について
6 2004.6.18	金	14:00-16:00	山脇啓造	明治大学商学部	教授	国と地方自治体の外国人政策—多文化共生社会の形成に向けて
7 2004.6.26	月	13:30-15:30	結城 恵	群馬大学教育学部	助教授	大泉町における不就業児童生徒の実態調査報告
8 2004.7.29	木	10:00-12:00	山川隆一	慶應義塾大学大学院法務研究科	教授	外国人労働者問題の法政策的位置づけと課題
9 2004.8.5	木	16:00-18:00	大崎敬子	国連人口部	Population Officer	International Migration Mechanisms of Cooperation
10 2004.11.22	月	17:00-19:00	井口 泰	関西学院大学経済学部	教授	外国人労働者の社会保障制度加入に関する研究会の趣旨・今後の進め方について
11 2005.2.16	水	19:00-21:00	二宮正人	サンパウロ大学法学部	教授	ブラジル日系人の労働と生活
12 2005.2.24	木	10:30-12:30	井口 泰 志甫 啓	関西学院大学経済学部	教授 博士課程	欧州委員会での調査結果 外国人労働者の地域分布の決定要因—南米日系人に関する分析—

移民・外国人を対象とする 調査設計の留意点

竹ノ下弘久

(慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所)

1. 本報告のねらい

- 報告者は、現在、階層研究を中心に研究。
- 移民階層研究を軸に、移民、外国人が受け入れ社会へと統合、編入されるなかで、いかなる階層構造へと組み入れられていくのか、外国生まれと自国生まれとの間には、いかなる機会の不平等が存在するのか、移民が2世、3世を経ても、その後も、機会の不平等は継続するのか。

2. 報告者がこれまでに外国人関連 で関わった調査

■ 在日中国人の家族生活と社会的ネットワーク に関する調査研究(1999年9月-11月)

関東地方で活動する中国人団体に調査協力を
依頼し、協力が得られた団体を通じて、その
団体の構成員を対象に調査を実施

回収は郵送法

配票総数 868、有効回収総数 148

調査項目:社会的ネットワーク、夫婦関係、育
児、社会階層

神奈川県外国籍住民生活実態調査

■ 調査主体:かながわ自治体の国際政策研究会

■ 調査対象:神奈川県内に外国人登録する18歳
以上の男女

■ 質問紙調査:10ヶ国語に翻訳

■ 1999年12月－2000年2月に実施

■ 調査項目:回答者の属性、日本での滞在と言
語、住居関連、地域での活動、情報入手経路、
子どもの教育、医療・年金、職業生活、公共施
設・行政サービスの利用、要望

神奈川県調査(続き)

- 調査方法: 郵送法、督促状を1回郵送
- 回収結果
- 標本数: 3024、不達数315、有効回収数1007、有効回収率37.2%
- インタビュー調査
- 2000年9月から2001年2月に実施
- 対象者数: 107名
- アンケート調査と同様の項目についてヒアリング

神奈川県医療機関調査

- 主体: かながわ自治体の国際政策研究会、ソナの会、神奈川県社会福祉協議会
- 調査対象: 神奈川県医師会名簿に登録されている全医療機関4809
- 郵送法
- 期間: 2001年10月1日から10月31日
- 有効回収数: 1094(有効回収率22.7%)

神奈川県医療機関調査(続き)

■ 調査項目

医療機関の所在地、診療科目、外国語で対応可能な言語、多言語問診票の使用状況、外国語での診察条件、言葉の通じない外国人への対応、外国人を対象とした診察頻度、外国人診療への積極性、外国人が保険制度に無加入時の対応、医療通訳制度の今後の方向性、運営主体、費用負担先

在日韓国人の社会成層と社会意識 全国調査

- 1995年と2003年に実施(パネル調査)
- 1995年調査
- 実施主体: 在日韓国青年商工人連合会
- 時期: 1995年2月—1996年10月
(名簿の不備のため、再サンプリング、追加サンプリングを実施)
- 対象者: 在日本大韓民国民団が保有する韓国国民登録台帳に登録された韓国籍の20歳以上の男性

在日韓国人調査(続き)

- 母集団から1280名を抽出
- 899の有効票(回収率70.2%)を回収
- 調査項目

最終学歴、職業経歴、所得、資産、在日何世か、民族学校への通学経験、地域移動、名前の使用、民族団体との関わり、民族への愛着、アイデンティティ、日本社会での権利意識(政治参加、社会保障など)

3. 調査設計の留意点

- 特定のエスニック集団のみを対象に調査設計を行うよりは、他の集団との比較を考慮に入れた調査設計が必要。→アメリカのエスニシティ研究は、比較を重視した設計。
- Survey of Income and Education (1976)
Latinoを重視した調査設計。アメリカ連邦政府の統計局が実施。複数のラテンアメリカ出身者の所得決定構造を比較。その際、ヨーロッパ系の白人との比較も重視[Borjas & Tienda 1985]。

Alejandro Portes[1985]らの 移民地位達成研究

■ 調査研究の前提にブラウとダンカンの地位達成分析[Blau & Duncan 1967]

父学歴、父職、本人学歴、本人初職、本人現職

■ ポルテスの場合、1973年、76年、79年の3時点にわたるパネル調査を実施し、移民のアメリカ社会への適応過程について研究。

ポルテスらの研究(つづき)

■ ダンカンの社会経済的地位指標、所得を従属変数とする重回帰分析に投入された独立変数
父職、キューバでの職業経験、キューバでの学歴、アメリカでの学歴、キューバでの所得、職業アスピレーション、期待されるソーシャル・サポート、英語の知識、(滞日年数)

移民の所得決定構造研究

- チスウィックの研究[Chiswick 1978]

移民の所得決定構造研究、所得を指標とした
移民のホスト社会への適応研究

- ミンサー型の賃金関数を移民研究に応用。
- 応用には、人的資本を出身国で獲得したものと、移住先社会で獲得したものとに分割。
- アメリカ国勢調査からの抽出サンプルを分析に使用。

移民の所得決定構造(つづき)

- チスウィックらの研究[Chiswick & Barry 1985]

- オーストラリアの国勢調査を使用。

foreign-bornとnative-bornとの人的資本と所得との関係の比較

- foreign-bornのうち、英語圏出身者と非英語圏出身者では、出身国で獲得した人的資本の所得に及ぼす影響力に大きな差。非英語圏出身者は、有意な効果がない。

移民階層研究で考えられる 主要な質問項目(1)

- 出身階層(両親の学歴と主な職業)
- 出身国での社会階層(出身国で獲得した学歴、出身国での主な職業、出身地域とその人口規模、出身国での労働市場セクター)
- 日本入国後に取得した学歴、入国後の職業経歴(初職と現職は特に重要)、入国後の労働市場セクター(企業規模、経営者のエスニシティは重要な指標、被雇用者の同国人や外国人の割合を聞いてもいい)

移民階層研究の質問項目(2)

- 複数の資産、耐久消費財の保有状況(自動車、電化製品、持ち家など)
- 世帯収入、個人収入、資産など
- 日本語能力、滞日年数、今後の滞在予定(日本への定住志向)
→いずれも日本社会での適応、地位達成に重要な要因
- 社会保険制度への加入状況
→かなり低いことが予想される

移民階層研究の質問項目(3)

■ 社会的ネットワーク(規模や密度など)

同国人同士のネットワークや日本人とのネットワークは、地位達成、日本社会への適応などに非常に大きな影響をもたらすと予想

■ 子どもの教育関連

子どもの年齢と現在の就学状況、最終学歴、親が子どもに期待する最終学歴、外国人学校への通学など→外国人受け入れ政策では、子どもへの教育保障が重要な課題。不就学率の高さ。

分析の際の他データとの比較

■ アメリカの研究

国勢調査からの抽出データを利用する場合
1つの母集団から抽出され、比較は容易

しかし、日本では国勢調査の個票は公開されていない。また、日本人と外国人を同じ抽出比率で抽出した場合、日本人に対する外国人の人口規模が非常に小さく、日本人のサンプル数が非常に大きなものとなる。

他データとの比較(2)

- 現実的なやり方としては、抽出比率の異なる調査データ間で比較を行うもの。
 - 在日韓国人調査では、SSM1995と比較できるよう、調査設計を行った。世代間移動、地位達成について、在日韓国人と日本人で比較。
- 外国人調査は、他の日本人調査と比較できるよう調査設計をする必要がある(研究所で実施する各種調査やJGSSなど)。

サンプルの抽出方法(1)

- 行政が実施する調査→無作為抽出の調査が主流(アメリカの国勢調査からの1万分の1抽出、神奈川県調査の場合、外国人登録原票から抽出)
 - 外国人を複数の出身地域別に比較
外国人登録原票からの無作為抽出が望ましい。
 - しかし、外国人登録原票を用いた調査は、今のところ、行政機関が関連するものに限定。
- 研究者の調査は必ずしも無作為抽出ではない。

サンプルの抽出方法(2)

- 外国人登録原票を利用できる場合、無作為抽出の方が望ましい。外国人登録原票を使うと、1つの確定された母集団から抽出するため、比較が容易。
- 有意抽出を行う場合
集住地域が特定しやすい場合、集住地域を中心に調査を実施。しかし、集住傾向にない外国人を対象者にしにくい。アメリカでも、研究者独自の調査は、有意抽出[Portes & Bach 1985]。

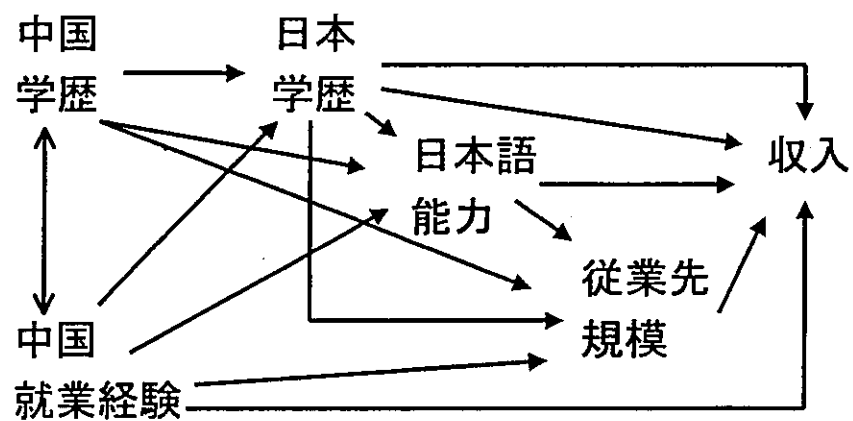
調査方法(1)

- 郵送法で行うか、直接面接法で行うかで異なる。
- 報告者が提案するような項目について測定面接法での調査が不可欠。
- しかし、日本の在日外国人調査の大半は、郵送法で実施。面接法の場合、個々のエスニック集団の言語や文化に精通した調査員を確保する必要がある。→果たして可能か？
- 神奈川県調査を始め、自治体の外国人調査の大半が郵送法を使用。

調査方法(2)

- 郵送法の場合
- 質問項目数とその内容が非常に限られたものになる。職業経歴の質問、職業小分類レベルでの細かい職業の質問が難しい。
- 費用も安くすみ、全国調査が容易に実施できる。

4. 具体的な研究例 滞日中国人の所得決定構造



分析結果

表4 滞日中国人男性の所得決定構造のパス解析

	日本での最終学歴		日本語能力		従業先の規模		世帯収入(自然対数)	
	B	β	B	β	B	β	B	β
定数	4.344**		4.830**		-175.232		4.982**	
中国最終学歴	.043	.014	.063	.044	102.760	.181	-.010	-.014
中国就業経験	-.526+	-.215	-.017	-.005	-87.504	-.065	-.354+	-.199
日本最終学歴			.143**	.300	38.609+	.203	.053*	.213
日本語能力					35.448	.089	.141**	.268
従業先規模							.000+	.174
配偶者就業有無							.356**	.281
年齢							.016	.153
N	81		81		81		81	
F	1.829		2.587+		2.001+		5.428**	
R2	0.045		0.092		0.095		0.342	
ADJ-R2	0.02		0.056		0.048		0.279	

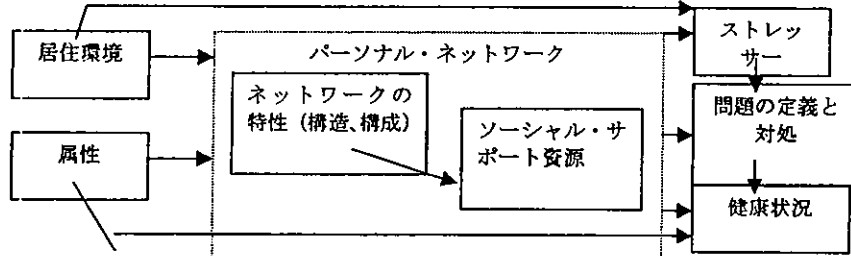
在日韓国人と日本人との 機会の不平等

■ 金明秀[2000]の研究

		年齢層Ⅲ			年齢層Ⅱ		
		教育	初職	現職	教育	初職	現職
父職	JP	.319**	.106*	.102*	.398**	.187**	.217**
	KR	.223**	.167*	.331**	.353**	.186**	.218**
教育	JP		.450**	.176**		.381**	.175**
	KR		.282**	.019		.262**	.099
初職	JP			.561**			.434**
	KR			.511**			.279**
R2	JP	.102	.244	.491	.158	.237	.430
	KR	.050	.129	.457	.125	.138	.202
N	JP	305			509		
	KR	215			320		

滞日中国人の社会的ネットワーク

図1 社会的ネットワーク、ソーシャル・サポート、ウェルビーイングとの関連



Hall and Wellman (1985:34)をもとに、筆者が一部修正。

分析結果

	子育て満足度		夫婦関係満足度		余暇生活満足度		日本社会生活満足度	
	1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2
性別	.102	.157	.128	.117	.159	.096	.213*	.148
滞日年数	-.117	-.062	-.044	-.078	.203+	.153	.226*	.124
教育年数	.294*	.318*	.329**	.392**	.183+	.223*	.090	.153
就業状況	.051	.042	.213+	.214+	-.058	-.043	-.023	-.010
世帯収入	.001	-.027	.014	.031	-.016	.007	.027	.065
エスニシティ	---	-.146	---	.011	---	-.017	---	.126
知り合った場所	---	.081	---	.179	---	.193+	---	.204*
密度	---	.245*	---	.094	---	-.164+	---	-.112
N	87	87	93	93	118	118	118	118
R2	.079	.161	.124	.160	.086	.147	.101	.175
F値	1.398	1.871+	2.466*	1.996+	2.115+	2.347*	2.524*	2.896**
ADJ-R2	.023	.075	.074	.080	.045	.084	.061	.115

+ p < .10 * p < .05 ** p < .01